

時代	近現代	遺跡	大床遺跡（隠岐の島町）
<h2>空襲と防空監視哨</h2> <h3>～発掘でわかる防空体制～</h3>			
<p>第二次世界大戦の末期になると空襲に備えるための防空体制が整備され、県内 38 箇所に防空監視哨が設置されました。</p>			



図1 西郷の見張り所

第二次世界大戦の末期になると、日本への空襲が行われるようになりまし。そのため島根県でも、各地に飛行機を見張る場所がつけられました。その数は 38 か所に及ぶと言われています（場所が判明しているのは 12 か所）。西郷の「見張所」（大床遺跡）の近くには、日露戦争の際にロシア艦隊を監視するためにつくられた「海軍望楼」（御崎谷遺跡）があります。「見張所」は飛行機を監視するために「海軍望楼」より高い場所につくられたと考えられます。また、監視哨とは別に、下の表のような特別見張所や陸軍監視所も置かれました。

第2次大戦中の隠岐の戦争遺跡（監視施設）		
名称	所在地	内容
（西郷）監視哨	隠岐の島町岬町	防空監視哨（聴音壕、大床遺跡）
島後特設見張所	隠岐の島町中村	海軍特別見張所（対空レーダー、全波受信機、水雷兵器など）
（東郷）陸軍監視所	隠岐の島町東郷	不明

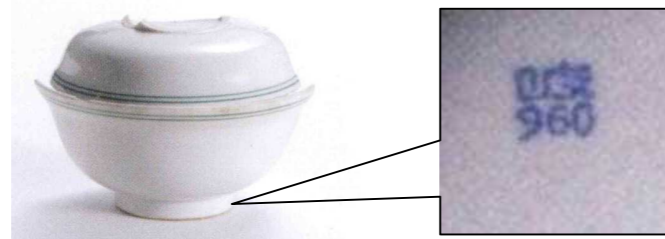


図2 西郷の聴音壕

図3 出雲の聴音壕
（北浜防空監視哨跡）

大床遺跡で見つかった西郷の見張所は「聴音壕」を備えていました。見つかった「聴音壕」は直径約 3.8m、深さ約 1mで、内部にはレンガが積んであります。この中に入って目と耳で敵機の襲来を監視しました。同じような「聴音壕」は出雲市でも確認されています。

大床遺跡では当時の人々が使った食器が見つっています。これらの食器の中には、「国民食器」と呼ばれるものがありました。これは戦争で物品が不足したため、政府が生産したもので、統制のため裏に生産地と番号が記してありました。



底に「岐960」という統制番号がついています。

図4 発掘された国民食器

出典：解説・・・（図1,2）『御崎谷遺跡・大床遺跡』2001 島根県教育委員会（図3,4）埋蔵文化財調査センター提供
ワーク・・・（イラスト,写真）『御崎谷遺跡・大床遺跡』2001 島根県教育委員会 及び埋蔵文化財調査センター提供

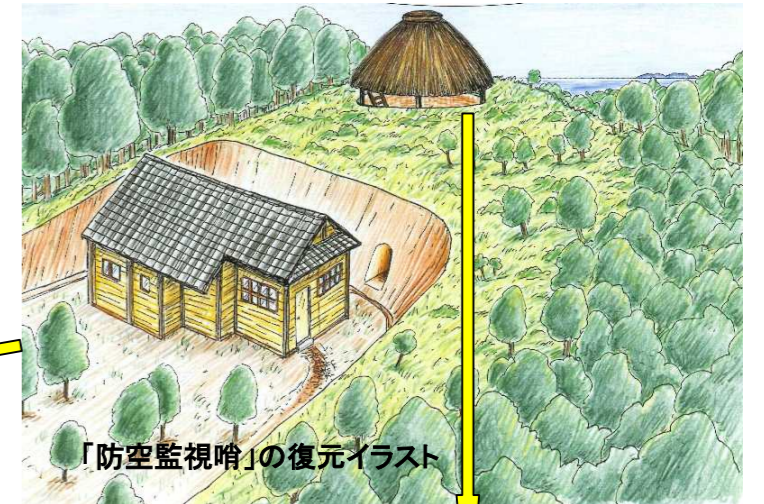
はっくつ ～発掘でわかる戦争への備え～

年 組 名 前

だいにじせかいたいせん
第二次世界大戦の末期になると、隠岐には戦争に関係した施設がつけられました。

Challenge

① 下の写真は、「大床遺跡」で見つかった第二次世界大戦中の防空監視哨（見張り所）の施設です。



① 見張り所は、島根県内のどんなところに置かれていますか。

② 上の写真は、地面に直径3mほどの穴を掘り、レンガを積んだものです。何のための施設でしょう？



見つかった食器（左は横から、右は食器の底）

左の食器は、大床遺跡で見つかった食器です。「国民食器」と呼ばれ、戦争で物品が不足したため、政府が作って配給したものです。「岐960」という番号がついています。

コラム

